

土木学会四国支部「土木紀行」No.17 (徳島)

吉野川橋 ～心の故郷～



写真-1 眉山と吉野川橋

徳島市を流れる吉野川の北岸からは徳島県のシンボルとも言える眉山と吉野川橋を同時に眺めることができます。吉野川橋は県道 39 号に架かる橋長 1071.0m、幅員 6.06m の 17 径間曲弦下路式ワーレントラス橋です。ワーレントラス橋というのは、斜材の方向が交互になるように配置される形式のトラス橋のことで、吉野川橋の場合はさらに鉛直材も加えられています。車道は片側 1 車線の対面通行であり、橋の両側には歩道橋が併設されています。下流に吉野川大橋が架かった現在でも 1 日に約 2 万台もの交通量があり、徳島の交通の大動脈となっています。

吉野川橋が完成したのは今から約 80 年前の 1928 年 12 月 18 日で、吉野川に架かっている橋としては以前紹介した三好橋に次いで県内二番目の古さを誇ります。完成当時は、東洋一の長大橋として全国から注目を集め、盛大な開通式には多くの人々が見学に訪れたそうです。

吉野川橋は 12 年に 1 度、橋を錆から守るために塗装の塗り替え工事が行われています。また、1992 年から 1994 年にかけては床版が全て新しく取り替えられました。このように補修、補強が繰り返されてきた吉野川橋ですが、現在でも主要交通の一端を担う存在として現役で活躍しており、その存在感と優美さは衰えることがありません。



写真-2 吉野川橋

吉野川橋を構成する各部材はリベットによって連結されています。今でこそリベットによる連結はほとんど使われていませんが、この時代には現在のような溶接や高力ボルトがなく、リベットで連結するしかなかったのです。にもかかわらず、このような雄大で荘厳な橋を造ることができたのは、この橋の設計者である増田淳の力によるところが大きいと思われます。



写真-3 車両走行部からの眺め

さらに、平行弦ではなくあえて計算の面倒な曲弦トラスにすることで、連続する景観に変化を持たせていること、橋を通過する時に見える上横構の幾何学的模様の美しさを出したことなど、吉野川橋からは増田淳の設計へのこだわりを垣間見ることができます。

また、日中は空や川といった風景に溶け込んでいる吉野川橋ですが、夜はライトが川面に反射して幻想的な雰囲気を出しています。吉野川橋をただ渡っているだけでは、このような景色にはなかなか気付くことができないのではないのでしょうか。皆さんが徳島に訪れた際には、ぜひ吉野川橋周辺の河川敷など、様々な場所からの眺めも堪能してみてください。



写真-4 夜の吉野川橋

参考文献：四国のいのち 吉野川辞典 - 自然・歴史・文化 - ，(財)徳島地域政策研究所
とくしまの橋 四国三郎 吉野川の橋，徳島橋梁技術者の会

写真撮影：著者